







デザイン・アート 文科省が届出を受理  
新学部設置 来年4月

文部科学省が8月、デザイン・アート学部、デザイン・アート学研究科の設置届出を受理し、いずれも2026年4月に設置される

衣笠キャンパスで建設が進む新学部の施設のイメージ

本学提供

# 新学部設置 来年4月

クリエイティブで変革を促す「CX (クリエーティブ・トランスフォーメーション)」を提唱し、創造的なマインドセット(考え方)を持つ人材の育成を目指す方針だ。オンライン授業に加え、教員が事前に用意した動画を視聴して学ぶ「オンライン・アート学部」を活用し、リアルとバーチャル(仮想)を融合した学習環境を整備するという。

「デザイン・アート」学部に着任する 中村大教授



取材に応じた中村大教授 = 9月20日、衣笠キャンパス

## デザインとアート一体に

論理的な思考や合理性、構想力といったデザインの持つ力と、創造性や雰囲気、経験に裏打ちされた美的感性といったアートの側面を結合させたのが本学部の特徴である。

本学部には、あえて専攻

固定しないことによって学

生一人一人に幅広い選択肢を

用意し、学びのデザインを

設けていない。ルートを

本学部に入学する学生に

は、この学部でデザイン・

アートに関わる知識や技能

を身に付けてほしい。そし

てそれに基づいていろんな創

造的な活動を実践して、自

分たちの未来の社会や生活

を大切に育んでいくことを

大切に育んでいくことを





# 反対署名1万7千筆

# 有志の会 —社会の反応 加味を—

立命館憲章改正案に反対する署名約1万7千筆を学法人立命館に提出した。有志の会は、全学的な立命館憲章改正案に反対する有志の会が7月10日、京都市中京区・朱雀キャンパスで

有志の会の松尾菜生さん署名を集めてきた。	「Change.org」で	改正案で「第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて」「自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き」などの文言が削除されたことなどに反対し、5月6日からオンライン署名サイト	材に「学園内で議論して、きた」と発言したことを受け受け「大学は公共に開かれたものだ。(憲章は) 社会に向けたものだ。」と強調した。	日本語学の問題
学園側は「確かに受け取りました」と応じた。(小林				日本語学の問題

議案を全会一致で可決した。自治会の執行委員会は、今後、学部生の総意として、文学部と直接協議する。執行委は、アンケート投票で、立命館憲章改正に対する反対を表明——を盛り込んだ学部生の意見を受取る。①立命館憲章改正の周知十分と見直しの要求②立命館憲章改正に対する反対を表明——を盛り込んだ学部生の意見を受取る。①立命館憲章改正の周知十分と見直しの要求②立命館憲章改正に対する反対を表明——を盛り込んだ学部生の意見を受取る。

議案書では、周知方法について「manaba（マナバ）+Rだけではなく、学内メールでも周知させるべきではなかつたのか」と批判し、「再度、マナバ以外の改正案への賛否はほぼ同数だったた。

疑問が拭えず、学園の根柢である『平和と民主主義』を脅かす恐れがある改正を肯定するのが困難』とした。このほか『改正議論が、後も続くのであれば意見交換に協力するほか、学部の代表として意見を伝え

# 文學部

## 改正巡り

本学の文學部生で組織される文學部自治会は7月1日を期して、

# 部自治会で 学生大会で さ 込んだ議案を提出した。 アンケートで憲章の改正 二つ、「口のぶら」など

「反対」全会一致

A classroom scene showing students at their desks, with one student in the foreground raising their hand to answer a question. The teacher is visible in the background. The text '学生大会で議案に賛成する参加者' is overlaid on the image.

# 文学部自治会 「反対」

# 改正巡り 学生大会で全会一致

A student in a grey hoodie is seen from the side, raising their right hand towards the ceiling. They are seated at a white desk with orange trim. The classroom has other students and desks in the background.

時代を  
映す、残す、  
変える。

おかげさまで通刊2000号

立命館大学新聞社  
RITSUMEIKAN UNIV PRESS



「検討委の改正の意図を詳  
細に説明できておらず、考  
え方の理解が深まつていな  
い」。意見集約を踏まえた総  
務部などの見解が、常任理  
事会に示された。

## 集まった意見「削除は学内民主主義を軽視」

「だが、「寄せられた意見が意図するところと改正委員会の考え方方に大きな違いはない」という。

検討委設置時、憲章は立命館の歩みや時代に対応して改正していくべきであり、2006年当時の学園から立命館が「大きく飛躍した」とから今次の改正が必要

検討委「解釈余地残さず 未来志向に」

<b>憲章改正を巡る学園内の動き</b>	
2024年	検討委設置
2025年	検討委が答申文書確定
4月	理事会に答申報告。 意見集約を開始
5月	教職員組合に説明会 評議員会に答申報告
6月	検討委・高山元委員長ら 本紙の単独取材に応じる 意見集約終了 院生協議会連合会に 説明会
	常任理事会に意見集約の 結果報告
現在	常任理事会で改正案の修 正案を審議

「**意圖同じも表現に相違**」

改正案に対する意見集約からおよそ4カ月。常任理事会で改正案の修正案が確定した。当初7月中の改正案議決を想定していたが、学内外から多くの意見が寄せられ「改正案の検討や丁寧な説明に一定の期間を要する」として決定を見送っていた。

（本文記事1面）（小林）

## 学内民主主義を軽視

意見では「第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて」「自主・民主・公正・公開・非暴力」の記述が改正案で削除されたことについて、強い懸念が示された。

「歴史を語るうえで必須」「学園のアイデンティティの中核をなす」との意見がみられ、「削除は学内民主主義を軽視するものとのそしりを免れない」と厳しい指

までのた。

あることが「大前と確認していた。改正案でそのまま引き継がれていない「もはや時代に即さないと判断されたわけで、ふさわしい表現を追結果」だという。

委員会の見解に歴史の継承に関しては、「学園のアイデンティティの中核をなす」との意見がみられ、「削除は学内民主主義を軽視するものとのそしりを免れない」と厳しい指

## 残さず 未来志向に

であることが「大前と確認していた。改正案でそのまま引き継がれていない「もはや時代に即さないと判断されたわけで、ふさわしい表現を追結果」だという。

委員会の見解に歴史の継承に関しては、「学園のアイデンティティの中核をなす」との意見がみられ、「削除は学内民主主義を軽視するものとのそしりを免れない」と厳しい指

「議」に帰着する」として、ねて表現しなかつたと説している。関係者によると、常任提「だ事会での議論の結果、「第一次世界大戦後、戦争の痛みの形で事柄がよい内容ではなく、求した立命館は当初、報道各の取材依頼に「検討中のめ回答は差し控える」旨回答を続けたという。教授は本紙の取材に「立館としてちゃんと見解を(道に)示せばよかつた」で、「解よりも、  
「OB・OGを含め、学

本学学友会の堀友世偉・学園振興委員長（理工3）が8月19日、本紙の取材に応じ、立命館憲章の改正案の検討過程について「改正ありきだった」と振り返りつつ、意見聴取を「一定評価する」と述べた。憲章については「本学がどのような方向に進んでいきたいかを表すものだ」との認識を示した。

「立命館憲章」改正検討委員会が4月から行つた意見聴取を前に「改正案が突然（検討委から）常任委員会に共有された」という。堀さんは、検討委による

## 改正案 検討過程 「一定評価」

学友会 学園振興委員長  
ほりゆうせいい 堀友世偉さん

常任委員会に対する意見聴取は2月と4月の2度あつたと説明。当時の改正案を見て、①学生にとつて分かれやすい内容でなくてはならない②学生が大学の構成員として関わっていることを意識する必要がある」と意見したと話す。

学園の常任理事会が検討期間の延長を決めたことに関しては、「議論の結果、改正是するかどうか決める形になり、全体的にブラッシュアップされた。学生の意見を重く受け止めている」との認識を示した。（真田）

シンポで採択されたアピールの要旨 教職員組合のシンポジウム「立命館憲章改正を考える」で採択されたアピールの要旨は次の通り。

◇ ◇ ◇

賛否が分かれる状況にもかかわらず、改正案の審議を常任理事会のみに一任することは、全学構成員の総意に基づく立命館憲章の改正手続きとして極めて問題がある。

私たち、今回の意見集約を受けて追加・修正・削除された立命館憲章改正案を、再度全学討議に付すことを強く要求する。

加えて、全学協議会構成員、パート、附属校生、学生大院生、そして学友会員院生協議会連合会、教職員組合との懇談の場を設定することも強く求められる。

立命館憲章は、本学の根幹をなすものだ。その改正は、全学構成員の総意に基づくべきであり、透明性ある十分な議論の機会が確保されるべきである。私はこの要求が速やかに受け入れられ、より民主化で開かれたプロセスが実現されることを強く要請する。



# 衣笠 消えゆく学生街



①現在の龍安寺参道商店街。店の数は少なくなった  
②地図を手に等持院・龍安寺地域を説明する河島教授



「衣笠ギャンパスは校門が打撃を受け、商店街から店や理工学部の移転(94年)で地域活性化のために何か挑戦したいという若者の背中を押すと、さまざまな支援も行っている。河島教授によると、商店街は周辺にあつた映画の撮影所の影響で発展し、本学開設後は学生を相手にする店も増加した。」

「衣笠ギャンパスは校門が河島教授は考える。」

や生協の職員になる人もいて振り返る。

衣笠ギャンパスは校門が河島教授は考える。

1978年から衣笠ギャンパスに通学していた文学部の河島一仁教授は、当時の立命館生活協同組合について振り返る。

衣料品や家具まで取り扱い、多数の学生が生協の理髪店を利用していた。生協のアルバイトに従事する学生も多く、「卒業後に大学休暇期間になると、平日でも生協の職員になる人もいる」と語る。

「生協頼りの学生生活を送りました」

1978年から衣笠ギャンパスに通学していた文学部の河島一仁教授は、当時の立命館生活協同組合について振り返る。

## 商店大幅減・生協頼りにも限界

た。

た。